

川崎医科大学附属病院 がんセンターNEWS

Vol.16 2014 冬号



撮影：春間 賢

- 胃がんは予防できる
- 最近の話題「骨髄内臍帯血ミニ移植」
- 第25回日本在宅医療学会学術集会のご案内

インフォメーション

- 第14回Cancer Seminar
- 第9回Oncology Seminar
- 第14回市民公開講座



胃がんは予防できる

胃潰瘍や十二指腸潰瘍などの消化性潰瘍に対するヘリコバクター・ピロリ（以下ピロリ）の除菌治療は2000年11月に保険適応となり、今や日常診療で行われる治療法となっています。

その後、2010年6月に早期胃がんの内視鏡的治療後、特発性血小板減少性紫斑病、胃MALTリンパ腫と適応疾患も広がり、平成25年2月には、ピロリ陽性胃炎に対しても除菌適応がさらに拡大されました。その背景には、ピロリ菌と胃がんとの関連が明らかとなり、またピロリ菌の除菌により、胃がんの発生が予防できる可能性が示されたことがあります。

しかしながら、歳を取り、胃粘膜の萎縮が進んだ状態ではその予防効果も低下します。また、高温分の摂取や喫煙も胃がんの発生に関わっています。出

食道・胃腸内科 春間 賢

来るだけ若い時期での除菌が勧められます。胃がんは、毎年、約5万人が亡くなり、20万人近くが罹患する日本人の国民病です。二十歳を過ぎたら、一度は内視鏡検査を受けピロリ感染を調べ、陽性の方は速やかな除菌をお勧めします。治療は1週間の抗潰瘍薬と2剤の抗生剤の内服で、副作用は少ないです。

ドイツ、米国、英国、中国、インド、インドネシア、カンボジア、ベトナム、ブラジル、チリ、いろいろな国で内視鏡検査を経験しましたが、日本ほど値段が安く、精度の高い内視鏡検査を受けられる国はありません。



最近の話題

さいたいけつ 骨髄内臍帯血ミニ移植

血液内科

血液内科では倫理委員会の承認を受けて多施設共同研究として「骨髄内臍帯血ミニ移植」を実施しています。

通常、造血幹細胞を移植する時には静脈から点滴して移植します。これに対し骨髄内移植とは骨髄の中に直接注射をするというものです。実際には骨髄穿刺と同様に腰骨（腰の骨）に針を刺し、そこから注射して移植を行います。

静脈から移植した場合、幹細胞は全身を巡った後、その一部のみが骨髄にとどまり血液を作り出します（生着といいます）。この際に肺に多くの細胞が捕捉されてしまい骨髄まで到達しないことが知られています。骨髄内に直接輸注をすれば幹細胞が体のどこかに捕捉されることなく、骨髄で効率よく血液を作り出すのではないかと期待されています。

また臍帯血移植は、赤ちゃんのへその緒（臍帯）から集められたごくわずかな血液（幹細胞）を移植するため、患者さんの骨髄にとどまることが出来ず「拒絶」（生着不全）されることが大きな問題点とされています。生着不全はひとたび起こると患者さんの転帰に直結する重大な合併症ですが骨髄内臍帯血移植は生着不全を減らすのではないかと期待されています。また血球回復までの期間、特に血小板回復までの期間が短縮されるということも期待されています。

当科では現時点で9例の骨髄内臍帯血ミニ移植を行っていますが生着不全は見られておりません。詳細な検討は今後待たねばなりません期待がもてる治療方法と思われます。

第25回日本在宅医療学会学術集会のご案内

臨床腫瘍科

2014年5月24日(土)～25日(日)に倉敷アイビースクエア・倉敷市民会館において第25回日本在宅医療学会学術集会を開催いたします。多数のご参加をお待ちしております。

第25回 日本在宅医療学会学術集会

THE 25TH ANNUAL MEETING OF THE JAPANESE SOCIETY FOR HOMECARE MEDICINE

会期 | 2014年5月24日(土)・25日(日)

会場 | 倉敷アイビースクエア

会長 | 山口 佳之 川崎医科大学 臨床腫瘍学



in KURASHIKI

創ろう、地域はひとつのホスピタル
-- 発信！我が在宅連携 --

演題募集期間：2013年12月11日(水)～2014年2月12日(水)

事務局 | 担当：弘中克治、岡崎 誠、徳田善久 〒701-0192 岡山県倉敷市松島577 川崎医科大学 臨床腫瘍学

運営事務局 | 〒701-0114 岡山県倉敷市松島1075-3 株式会社メッド
TEL:086-463-5344 FAX:086-463-5345 E-mail:jshn25@med-gokkai.org

<http://www.med-gokkai.org/jshn25/>

がんセンター活動予定

● 第14回Cancer Seminar (医療従事者向け)

- 日時** 平成26年2月8日(土) 13:30～16:00
場所 川崎医科大学 校舎棟7階 M702講義室
テーマ 「病理、画像および腫瘍マーカーで分かること分からないこと」
- 座長: 平塚 純一(放射線科(治療)部長)
- 講演①: 「日常臨床における腫瘍マーカー(CEA, CA19-9)」
 松本 英男(消化器外科副部長)
- 講演②: 「前立腺がんにおけるPSAの役割」
 常 義政(泌尿器科医員)
- 講演③: 「病理-免疫染色の診断有用性と限界」
 鹿股 直樹(病理解剖学副部長)
- 講師④: 「PET,CT,MRI」
 玉田 勉(放射線科(画像診断)副部長)
- 講演⑤: 「超音波検査を上手に活用するコツ」
 今村 祐志(内視鏡・超音波センター医員)

● 第9回Oncology Seminar (看護部・メディカルスタッフ向け)

- 日時** 平成26年2月22日(土) 13:30～16:00
場所 川崎医科大学 校舎棟7階 M702講義室
テーマ 「チームで行う症状マネジメント～造血器腫瘍～」
- 座長: 林 かよこ(看護部主任)
- 講演①: 「血液のがんについて考える～「癌」と「がん」ではこれだけ違う～」
 和田 秀穂(血液内科部長)
- 講演②: 「免疫力が低下した造血器腫瘍患者の看護」
 坂東 多恵子(看護師員)・村上 孝子(看護師員)

● 第14回市民公開講座

- 日時** 平成26年3月15日(土) 13:30～16:00
場所 川崎医科大学現代医学教育博物館 2階大講堂
テーマ 「がん治療の最近の話題」
- 講演① 座長: 平井 敏弘(がんセンター長・消化器外科部長)
 「ピロリ菌と胃がん」 井上 和彦(総合診療科副部長)
- 講演② 座長: 紅林 淳一(乳腺甲状腺外科副部長)
 「遺伝医療」
 1) 「がんの遺伝医療」
 山内 泰子
 [川崎医療福祉大学医療福祉学部医療福祉学科教授
 臨床遺伝専門医]
- 2) 「遺伝カウンセリング」
 山内 泰子
 [川崎医療福祉大学医療福祉学部医療福祉学科准教授
 認定遺伝カウンセラー]

駐車場

外来駐車場をご利用ください。
 (サービス券をお渡しします。)

お申込み・お問い合わせ先

川崎医科大学附属病院 患者診療支援センター
 〒701-0192 倉敷市松島577
 TEL 086-462-1111 (内線22612)
 E-mail renkei@med.kawasaki-m.ac.jp

オープンカンファレンスのご案内

下記のカンファレンスを行っています。
 参加ご希望の際は地域医療連携室までご連絡をお願いします。

呼吸器カンファレンス

呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科(診断・核医学)・病院病理部合同で「呼吸器X線カンファレンス」を行っています。院外の先生方もどうぞご参加ください。気になる症例がありましたらレントゲンをお持ちいただいても結構です。

- 日時** 第2・4月曜日 18:00～19:00
場所 9階中病棟 第2カンファレンス室

大腸癌化学療法カンファレンス

外科・内科・臨床腫瘍科・放射線科の医師・看護師・薬剤師など多職種からなる医療チームで、外来大腸癌性腫瘍に対する治療方針(化学・放射線療法プロトコル・手術介入など)の決定についてのカンファレンスを行います。院外の先生方や医療スタッフの皆さまもどうぞご参加ください。

- 日時** 第1・3金曜日 17:30～19:00
場所 本館10階 通院治療センター

緩和ケアカンファレンス

毎週木曜日13:15から14階西カンファレンス室で緩和ケアチームのカンファレンスを行っております。

Case Conference

各診療科から症例を提示し、その診断と治療およびケアについて複数の診療科で、また医師・看護師のみならず広くコメディカルも参加して横断的かつ総合的に討論し勉強する症例検討会です。

- 日時** 第2木曜日 18:00～19:00
場所 川崎医科大学 校舎棟7階M703講義室

Nutrition Support Team (NST) カンファレンス

毎週火曜日13:00から14階南カンファレンス室でNSTミーティングと勉強会を約1時間行っています。どなたでも参加可能です。



川崎医科大学附属病院

〒701-0192 岡山県倉敷市松島577
 TEL 086-462-1111(代表)
<http://www.kawasaki-m.ac.jp/hospital/>

紹介患者さま受診予約窓口

■地域医療連携室

直通 TEL(086)464-1567
 代表 TEL(086)462-1111(内線22611・22613)
 直通FAX(086)464-1166
 E-mail renkei@med.kawasaki-m.ac.jp